

目指す学校像	みんなで作る みんなの与野西北小学校 ～「輝く瞳に夢いっぱい」な学校を子ども・家庭・地域と協働・連携してつくります～
--------	---

重点目標	1 学びの自律化と個別最適化及び探究化の実現 2 誰一人取り残さないきめ細やかな教育活動の推進と安心・安全な教育環境の整備 3 家庭、地域との強い絆で結ばれた「みんなで作る みんなの与野西北小学校づくり」の推進 4 教職員の資質向上と働き方改革の推進
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価		
年度目標								実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等		
1	〈現状〉 ○さいたま市学習状況調査では、国語、算数ともに市平均と概ね同水準である。 ○タブレット端末の使用状況について、市の平均と同水準である。 〈課題〉 ○デジタルの優位性について理解を深め、一層の効果的活用を推進していく必要がある。 ○全国学力・学習状況調査結果から、話の中心を捉えることなど、「話すこと・聞くこと」に課題が見られる。 ○本年度より3か年計画で取り組む学校課題研究について、本校児童に身に付けさせたい力等について議論を重ね、児童の実態に即した学校課題研究を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報端末及び学校図書館の利活用を通じた学びの自律化、個別最適化、探究化の実現</li> <li>児童と教職員の実態を踏まえた学校課題研究及び「与野西北小 STEAMS TIME」の推進</li> </ul>	①学校課題研究の取組とも関連させてタブレット端末を積極的に活用し、デジタルの優位性を生かした授業を展開する。 ②学校図書館の利活用を推進するため、年間を通して読書活動を工夫する。	①ICT 関連に係る学校評価の児童と保護者の肯定的回答及び12月の児童の端末活用状況が昨年度を上回ったか。 ②学校評価における、授業と読書活動に係る肯定的回答が前年度を上回ったか。						
2	〈成果〉 ○市学習状況調査の質問「学校に行くのが楽しい」について肯定的回答の割合が、市平均と同水準である。 ○昨年度、積極的な生徒指導や人権教育の充実を図るための教育活動を展開してきたが、いじめの根絶は達成できていない。 ○昨年度、学校施設の瑕疵による事故0件。 〈課題〉 ○調査において肯定的回答割合の数値のみを見るのではなく、否定的な思いを抱いている児童に対する個別支援を充実させる。 ○地域の宝である子どもたちがいじめの根絶に向け、教職員、保護者、地域が三者一体となって、根気強く協働する。 ○安心安全な環境づくりに向けた取組についての凡事徹底を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人ひとりへのきめ細やかな学習指導・教育支援・教育相談に向けた校内体制の充実</li> <li>児童の安心安全な教育環境の構築に向けた組織的取組の一層の推進</li> </ul>	①個々の児童の実情に即した指導等を行う支援教室を設置し、学習指導及び教育相談等における、きめ細やかな教育活動を展開する。 ②アンケート及び面談等の結果から個々の実態を把握し、生徒指導、教育相談、特別支援教育の分掌を中心として、関係機関との連携も視野に入れながら組織的に対応する。	①支援教室について、活用計画を立案し計画に基づいて運用することができたか。 ②学校評価における、いじめ・人権教育に係る肯定的評価が昨年度を上回ったか。						
3	〈現状〉 ○昨年度は、八王子中学校との合同学校運営協議会で児童生徒に育みたい力について熟議し、「輝くひとみの子どもたち」の具現化に向けて熟議を行った。 ○市学習状況調査における「地域とのかかわり」について、肯定的評価が市平均と比較し低い傾向にある。 〈課題〉 ○地域の未来を担う児童のために、学校課題の解決に資する活動の一層の推進を図る。 ○児童の地域理解を深めるとともに、地域の未来を担う子どもたちの思いや願いが伝わる学校運営協議会について研究を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ・スクールの一層の周知と学校課題解決に向けた協働活動の実施</li> <li>一人ひとりのWell-beingを大切にす学校づくりに向けた児童参画型コミュニティ・スクールの研究・実践</li> </ul>	①コミュニティ・スクールについて、学校だより、学校HP等を通して保護者、地域への一層の周知を図り、協働体制の基盤づくりに努める。 ②学校運営協議会で取り上げる学校課題を精査して情報を共有する。	①学校評価における、地域・コミュニティ・スクール関連の質問について、保護者及び学校関係者の肯定的回答が90%以上となったか。 ②学校課題に係る協働活動を実施することができたか。						
4	〈現状〉 ○超在校時間は減少傾向にあり、時間的視点から見た働き方改革は進んでいる。 ○ICT機器の積極的活用は進んでいるが、「ICTや情報・教育データ活用」を自身の課題と捉えている教職員が多い。 〈課題〉 ○具体的な授業場面を想定したICTの効果的活用について理解を深める必要がある。 ○働き方改革及び教職員がやりがいを感じる職場づくりを一層推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器の有効活用に係る教職員の資質向上と、職務にやりがいを感じる職場環境の構築</li> </ul>	①アクティブ・ラーニング型授業の充実に向け、ICT機器利活用に係る研修会等の受講を奨励するとともに、エバンジェリストから積極的に情報を発信する機会を設ける。 ②人事評価面談や校務分掌主任等との面談において、教育活動に係る成果と課題及び業務改善について話し合い、明確な目標をもって職務にあたることができるようにする。	①教職員アンケートにおける、ICT等の利活用を通じた授業改善に係る質問について肯定的回答が、90%を上回ったか。 ②職務にやりがいや満足感を感じている教職員の割合が、前年度を上回ったか。						

